



第18回京ヶ峰倶楽部展 テーマ「旅」にて

診療局長就任ご挨拶

本年4月から診療局長の職を拝命致しました山本と申します。広報誌の場をお借りしてみなさまにご挨拶を申し上げます。

大学卒業後、地域医療を推進している長野県の病院で2年間研修医として、過疎地域の外来診療、在宅酸素や進行性神経疾患の患者さまの往診などを経験しました。「まず暮らしをみる」医療を出発点とした研修をする中で患者さま自身が語られる人生の物語に興味をいだき、同病院で更に1年間精神科勤務を経験しました。こちらでも何度もご自宅に伺う経験ができ、充実した時間でしたが精神科医としての知識が不十分であることを自覚して、母校の大学病院精神科での2年の研修を経て、20年前に初めて当院に赴任しました。その後、産休や育休を経て非常勤医となることや、別の精神科病院や診療所勤務をしていた時期もあります。

当院に就職した当時は開放療養病棟担当でした。診療の他に、病棟やデイケアの患者さまと院内行事、運動会や盆踊りのための練習、院外でのバス遠足、お花見、カラオケなどの時間がありました。長い療養生活の中で充実した時間を送られるよう様々な行事を設けていることに驚きましたし、患者さまの長けた能力を垣間見ることができ、興味深かったです。のんびりした時代のスタートでした。

その後、日本の精神保健医療福祉政策は大きく変化し、長期入院医療主体から地域生活支援にシフトしてゆきます。当院でも救急病棟が導入され、専門性を高めた医療、細やかな心理的アプローチ、訪問看護、訪問診療などが始まりました。私も救急病棟でチーム医療の一員として数年やってきました。

私は決して順風満帆な精神科医キャリアを送ってきたとは言い難いのですが、「患者さまを主人公として考える」ということはぶれずに貫いてきたつもりです。

初心は忘れず「患者さまの自己実現のために」をモットーとし、「ここで治療を受けたい」と思って頂ける病院づくり、職員にとっては変化に柔軟で風通しよく働きやすい職場づくりの一端を担うことができるよう尽力していきたいと思っております。

医療法人芳精会 京ヶ峰岡田病院
診療局長 山本 奈穂

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために
～ For the Patients ～

第18回 京ヶ峰倶楽部展 開催のご報告

2023年
6月28日(水)～7月2日(日)

2006年(平成18年)に「第1回京ヶ峰倶楽部展」が岡崎市美術館で始まりました。今年のテーマは「18」回目の開催ということで、「青春18きっぷ」から「旅」としました。コロナ禍ということもあり、旅に出る機会は減っていますが、それぞれの旅先でやりたいこと、食べたいもの、訪れたいところなど、旅に出ることを思い描きながら制作しました。

今年のポスターは、今までと趣向を変えたポスターにしたいと考えており、委員の中で絵が得意な人に描いてもらいました。その委員を知っている患者さまにそのことを伝え、ポスターを見てもらうと「きれいだね。すごいね」という声が聞かれ、普段いろんなことに関心を示さない患者さまもポスターを手に取り、じっくり見ていたのが印象的でした。

作業療法のプログラム変更や、感染対策で行えない時期もあり、例年に比べると個人の作品が減りましたが、作品数は104点(手工芸、陶芸、絵画、写真、書道、病棟やグループ作品)を展示し、院内での生活や行事も紹介しました。



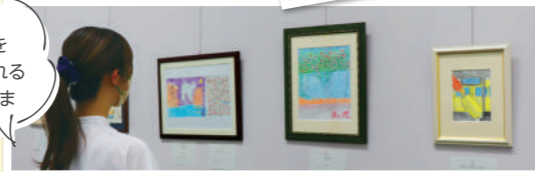
黄金に輝く「金閣寺」



今年のテーマ「旅」



作品を鑑賞されるお客さま



会場へは総勢324名の方が足を運んでくださいました。アンケートや感想からは、「一生懸命さを感じます」「発想の豊かさに驚かされます」「それぞれの個性ある作品が見られました」などのご意見をたくさんいただきました。また、「来年も更に充実した作品展を楽しみにしています」「知り合いを誘って来ます」との声も多くいただき、継続して開催することの大切さを感じています。みなさまからいただいたご意見を参考に次年度に繋げ、作品を通じて患者さまの豊かな世界に触れていただきたいと思います。



地域懇談会 開催のご報告

2023年5月30日(火)に開催予定でしたが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、資料を郵送する形での開催になりました。そのご報告と共に、今回送付させていただいた資料の中から、特にお伝えしたいデータをご紹介します。

1: 受診相談件数(ほぼ100%電話による相談)

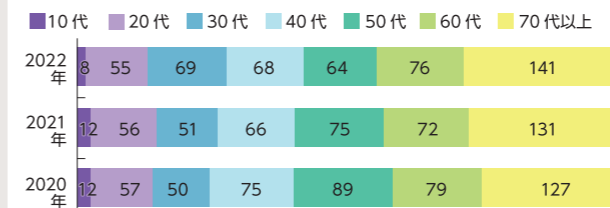
受診相談件数が昨年と比較して40%以上増加しています。相談相手としては、職場や小中高校からの相談が増加しています。年齢別では70歳以上の高齢者の割合が増加しています。



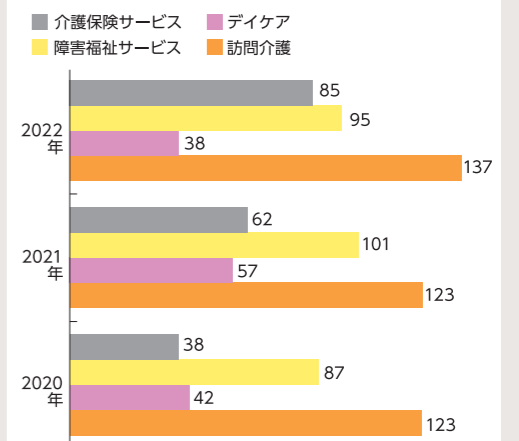
2: 退院後の動向

退院された患者さまの年齢別動向を見ると70代以上が増加しています。それに伴い、介護保険サービスの利用件数がこの3年で2.2倍に増加しています。社会全体の高齢化に伴い、当院の患者さまも高齢の方が増えていくことが予想されます。患者さまが退院後に安定した生活を送ることができるよう、障害福祉分野だけでなく介護保険分野の事業所とも、より一層協力を深めていく必要があると考えています。

年齢別(全体)



退院時利用サービス等(複数回答)



*各年度の退院者数は2020年489人、2021年468人、2022年481人

外来では10代、20代の受診が増えており、入院は70代以上が増えています。様々な年齢、様々な病気や障害を抱える患者さまのサポートがより求められる時代となりました。今後も地域の基幹的な精神科病院の役割を担うことができるよう、関係機関の皆さまのご協力をいただきながら精進してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

2022年秋に開催いたしました第4回京ヶ峰ふれあいまつりに寄せられた川柳をご紹介します。シリーズの第2弾。地元のお客さんの川柳のご紹介です。

- ◆ 髪パーマ いくらとんでも 治らない
- ◆ 朝弱く 夜に強い の困ってる
- ◆ 暑すぎる のども地球も からからに
- ◆ さつまいも これぞわがやの 秋のあじ
- ◆ 息白い なぜだか肌は 黒いまま
- ◆ 冬到来 君の出番だ シマエナガ
- ◆ 父母に 伝えるべきだ ありがとう
- ◆ 黒ねこよ おかしをくれなきや ひつかくぞ
- ◆ そうめんつゆ お茶だと思つて 飲んじゃった
- ◆ 家族たち ゲームをやると 治安悪い
- ◆ 弟は えんそくたのしみ 早おきだ
- ◆ ねつとき ねようとしても 動いちゃう
- ◆ おばあちゃん 同じことを 5回いう
- ◆ お母さん メイク長すぎ 待つてます
- ◆ 暴言は 一番人を 傷つける
- ◆ 人と人 差別をなくし 笑顔にね
- ◆ 一つの命 未来のための バトンリレー
- ◆ 動物も 命があるから 大切に
- ◆ 思いやり 笑顔のもとに なるんだよ
- ◆ ゲーム時間 きめてたのしく あそびたい
- ◆ 買い物に いつもさそれ ついていく
- ◆ お母さん いつもおこつて つかれたい?
- ◆ 家族とね ずっと楽しく すごしたい
- ◆ ふれあうと こころはすこく びつつかひか
- ◆ 日は暮れて 一人で帰る 受験生
- ◆ 登校時 スマホの代わりに 単語帳
- ◆ 模試集中 マークシート もう見飽きた
- ◆ ありえない まさにラスト 日本語は
- ◆ 受験生 あとは散るのみ 青い春
- ◆ 合格の その文字目指して 日々努力
- ◆ 受験とは 希望とマンボウの マリアージュ
- ◆ 受験生 勉強せずに 甲子園
- ◆ 英単語 覚えた次の日 なんだこれ
- ◆ 3年生 二度は見れない 通学路



行事報告



グランドゴルフ大会

■5月10日(水)・11日(木)

患者さま・職員、総勢33チームが出場し、4コースの総打数が少ないチームが優勝です(順位決めは各日で行いました)。両日ともに暑い日となりましたが、久しぶりに顔を合わせたこともあり、笑みがこぼれ、参加賞のアイスを美味しく食べていました。

【結果】優勝:スマイルD、中央4病棟D、総務部



デイケア バーベキュー

■5月18日(木)

デイケアではコロナ禍の影響で開催を控えていたバーベキューを4年ぶりに行いました。当日は雨も降らず外の空気もおいしく、太陽も僕らを祝福してくれているようでした!栄養部の協力もあり、お肉・野菜をたっぷり食べ、たくさんのメンバーの笑顔を見ることができました!「またぜひ行いたい」との感想が多かったです!

4年ぶりに開催しました



希望会 卓球大会

■6月7日(水)

メディアス体育館おおぶ(大府市民体育館)にて開催され、20チームが出場しました。当院は4年ぶりに参加し、1回戦で負けてしまったものの、対戦相手は3位入賞したチームだったため、補欠の選手も一丸となって応援しました。



葵1病棟 行事食

■5月31日(水)

- ・カレーライス
- ・ハムステーキカツ
- ・かにかまの変わりサラダ
- ・抹茶あんみつ



ごちそうさまでした!



七夕納涼会

■7月5日(水)

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行のため中止となりましたが、今年は院内の京ヶ峰ホールで開催することができました。約230名の患者さま・職員が七夕の願い事を書き、かき氷を食べ、暑い夏を感じることができました。

おすすめコーナー

缶珈琲

私のおすすめは「缶珈琲(カンコーヒー)」ですが、旅先のお土産として珍しいご当地コーヒーを探してきてほしい依頼ではありません。趣味の楽しさを語り合う余裕も失われそうな毎日であって、文字どおり「カンコーヒー」でも飲みながら対話できると素晴らしいですね。新しい仲間を「歓迎」して協力を「感謝」して何事にも「関心」を持つ基本姿勢。失敗しないように頭で考えるのも大切ですが、ともに「行動」して相手を「肯定」してみんなで「向

上]していく組織。医療技術面でも長年の経験を生かした「秘策」を「披露」して全員で「飛躍」していける職場。語呂合わせ創設にまつわる「勳」がさあれば本来のおすすめを強調できた後悔しきりですが、イラストを眺めて過去を懐かしんだり現代を深掘りできたりすれば、みなさまの明日から「秀」でること間違いなしです。知らんけど(笑)。



医局 滝川 英昭

(※次号は東病棟の職員が担当します。よろしくお願いたします。)

編集後記

最近はずいぶん暑くなり、マスクの中も蒸れるようになってきました。世間ではマスクを外す風潮になってきていますが、医療従事者はまだまだ気が抜けません。いつか患者さまとマスクを外して笑顔で会話できる日を楽しみにしていますが、今は我慢です。 広報委員 鈴木

